

今年はつうまは立春が初午になります。お稻荷様詣でをする方もみえるはずですが。

立春からはじまる新しい年に初めて汲くんだ水を若水わかみずといい、神仏に供え、おさがりを頂くと健康や、豊作、仕合せを招いてくれる水とされます。若狭の神宮寺から送られる東大寺二月堂の御水取りは有名です。但し旧暦です。今年三月十二日 壬午みずのえうまの日になります。水は多量に降れば水害を起しますが、農業は勿論の事、工業化学等様々な分野に於いて必要とされています。考えるまでもなく水は生命いのちの根源なのでしよう。

古代より水と火は神聖な物であり、現在でも日本の各地で祭礼に用いられています。

最近の家電屋は直に炎を見る事の無い安全がうたい文句のI・Hのコンロを売り出しています。調理するのに炎がでないのに煮たきができますし、ご飯も炊けます。素晴らしい事であると思えますが、仏事にとつて炎はたいせつなものです。密教の護摩供養は火をもつてする作法ですし、古ふるいお札ふだや損傷したお位牌、佛具、卒塔婆等は浄焚じょうぼん 供養して焼却することこととされます。以前にもお話致しましたが仏教では水と火で浄化されないものは不浄なものとされます。環境を汚染させる物は造ってはいけません。再生できない物が蓄積され、やがては地球自体が滅していく事になりかねないのです。電気も水力発電が貯水も含め良いかと思えます。効率だけを追求すれば後に成って大変困る事になるでしょう。電化製品の普及も一段落でしょう。昭和三十年代後半から洗濯機 水洗トイレの普及著しく水の使用量もぐんと増えたわけです。依然として水は昔のまま自然の恵みが頼りですが、唯、電気や水の使用量だけを考えればもう少し辛抱しんぼうすれば日本は少子化により人口が減りますのでそう心配しなくても良いかもしれませぬ。

生活に必要なであるということと生命、生きる事は違います。自殺等不慮ふりょの死以外に於いては病院のベッドで死んでいく人間が多い。人間は食生活が出来なく成れば自然に死んでいけます。平癒へいゆする確率が数パーセントしかなくても管を指しまくってでも生かしておく必要は何なのか。それが病んでいる人の命の尊厳なのか私は分からない。見ている方も辛いつらい。その人と家族の仕合せが一番で有ります。意識いしきのあるうちにしつかり終焉しうげんに向かう方向性を話し合っておきたいものです。高齢化に成り、一番危惧きくされるのは介護が必要になる事です。肉体的、精神的に病む、痛みを如何に減らせるかにあります。心のケアは信仰にあると私は思っています。私は臨終を自然にまかせ自宅で最後を看取みとってやりたいと思っています。法然上人の念佛往生です。生きるとう事ことの裏側には常に死ぬと云う事が付いて回っているのですから。死ぬ時は多分心寂しくなると思えます。住んでいた家で家族の一人として見取られながらお念仏の声に送られ私も死にたい。念佛往生がしたい。

二十六年二月一日

善壽界善入院油掛地藏尊